



優秀賞

山形県 株式会社 マルキ
「『マルキ子どもにここにこ基金』
による多彩な支援」事業

社会貢献という企業理念を体現する

親の病気や仕事の都合、虐待など、さまざまな理由や事情で親や家族と一緒に暮らせない子どもたちが入所する児童養護施設は、全国に550ヵ所あまりある(2007年度)。入所している子どもたちは約31000人といわれているが、最近では定員に対する入所者数の割合が90%を超え、ほぼ満員に近い状態である。児童養護施設を運営しているのは自治体や社会福祉法人だが、その費用は措置費といわれ、国と自治体が半額ずつ負担することになっている。ただし、措置費には子どもたちの食費、医療費、学用品費などのほか、職員の給料も含まれるので、どの施設も苦しい運営が続いているのが実状である。

どのような状況に置かれていたとしても、子どもたちには等しく未来がある。山形市に拠点を置き、山形市、新庄市に「ゼスト」6店舗を展開する(株)マルキでは、昨年2月、児童養護施設で暮らす子どもたちの活動支援・協力を目的のひとつとして、「マルキ子どもにここにこ基金」を設立した。

マルキは地域に根ざす企業を目指し、企業理念の柱のひとつに、「お客様に期待され、社会に貢献できる企業活動」を掲げている。その理念を体現するための核として「マルキ子どもにここにこ基金」は設立されたのだが、この基金が発足する以前から、同社では端玉お菓子募金を行い、児童養護施設にお菓子を届けたり、施設で行われるイベントにボランティアスタッフとして参加するなどの人的協力も行ってきた。その支援活動は丸6年継続している。そのほかにもクリスマス募金、災害義援金への参加、山形県健康福祉部への協賛、警察署と協力しての交通安全や指名手配犯逮捕呼びかけCMのLEDビジョン放映など、さまざまな角度から社会貢献活動を行ってきた。それらの活動をひとつにまとめ、より一層、従業員や来店客、地域住民などが参加しやすく、活動しやすいものにするため、発展的に設立されたのが「マルキ子どもにここにこ基金」である。

基金の活動の中心となっているのは、以下の4つの支援活動である。

ため、未来ある子どもたちを支援する基金を設立



ホールに掲出される基金やクリスマス募金のお知らせ

①施設支援

クリスマス募金、端玉お菓子募金、チャリティプロレス、行事参加、アニメビデオ寄付など、山形県内の児童養護施設で暮らす子どもたちの活動支援・協力。

②災害支援

自然災害などの被害者に、支援団体を通じて寄付する。ミャンマー・サイクロン、中国・四川大地震、新潟中越地震、スマトラ島沖地震、パキスタン北部地震、ジャワ島中部地震、能登半島地震、新潟中越沖地震などへ寄付。

③NPO活動支援

カンボジアでの学校設立に対して、NPO法人を通じての支援金協力、「世界の子どもにワクチンを日本委員会」や「セーブ・ザ・チルドレン」を通じて寄付。また、技術研修のための留学生の受け入れ協力。

④障がい者支援

日本聴導犬協会への寄付、骨髄バンク啓発活動への

協力、山形乗馬療法研究会「日本一たのしい馬まつり」への協賛などを通じ、障がい者の活動への協賛や支援・協力。

マルキでは寄付活動に終始するのではなく、ホール施設内に端玉お菓子募箱を継続的に設置することで、来店客に児童養護施設の存在を周知する仕組みづくりにも取り組んでいるほか、施設にプロレスラーを招いて行ういじめ撲滅運動などでは、従業員がボランティアスタッフとして参加し、積極的に協力している。昨年は、さまざまな活動にボランティアとして参加した従業員数が延べ100名を超えるなど、社会貢献活動に対する意識の高さを垣間見ることができる。このような実践の積み重ねこそが、基金を下支えしていく原動力になるに違いない。



株式会社 マルキ
取締役 事業統括本部長
井上智之さん



株式会社 マルキ
広報室
森谷美恵さん